

行政資料はこのように利用された

— 昭和47年県行政資料室利用実績 —

行政資料室は、行政資料の集中管理と利用の高度化をはかり、情報化社会にふさわしい近代的、合理的県行政をすすめるため、昭和42年に設けられたものである。場所は本庁舎3階の東側、面積はほぼ90平方メートルで、室の運営管理は統計課（行政資料係）があたっている。現在、中央・地方の行政機関等で発行された貴重な資料などを中心に約2万5千余冊の資料を発行機関別に分類保管してある。

利用者の大部分は県職員であるが、この資料室はいつでもだれでも利用できるのも、一般の方々も企業の経営資料や学術研究などの資料として広くご活用をお願いするものである。

当資料室の昭和47年中における利用の状況は次のとおりである。

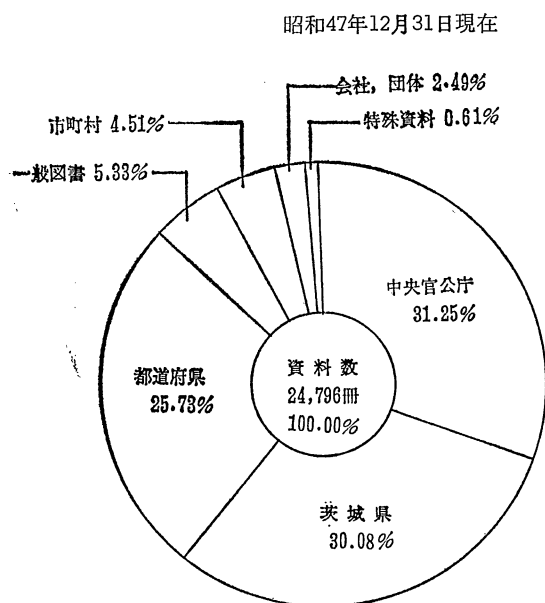
保管資料と年間収書数

昨年12月末日現在の資料24,796冊のうち、最も多いのが中央官公庁関係で7,748冊、全体の31.25%を占め、次いで本県分、他都道府県の順となり、地図、写真等の特殊資料は最も少なく151点、0.61%となっている。（第1図）

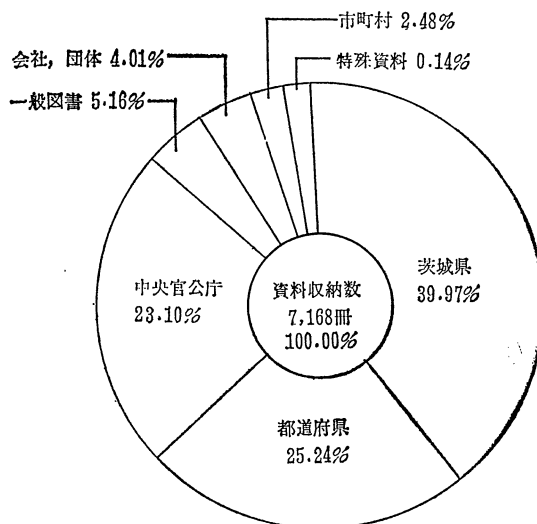
なお、資料を内容種別にみると統計資料が圧倒的に多く20,401冊で全体の84.0%。その他の資料は3,886冊、16.0%で大部分が統計関係資料である。

情報化時代を反映して年ごとに保管資料数の増加がみられるが、昭和47年中に行政資料室が収集した資料は総数で7,168冊である。うち本県関係収書数は2,865冊（39.9%）で最も多く、次いで他都道府県、中央官公庁、一般図書順となっている。県内市町村関係は刊行量も少ないことから、当室収納数も178冊、2.4%と低い。（第2図）

第1図 分類別資料数



第2図 昭和47年資料収納数



利用者数（閲覧・貸出し）と利用冊数

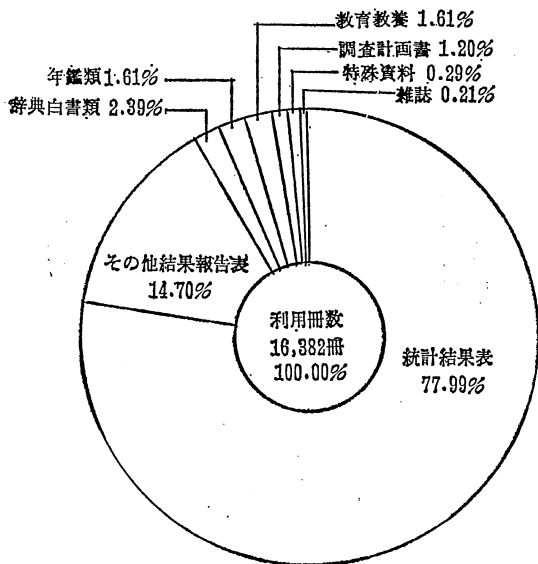
閲覧利用者は年間 3,872 人で月間 323 人が利用している。最も多い月は12月、4月など年末、年度始めの月である。利用者を資料の分類別にみると、中央官公庁資料が最も多く、次いで茨城県資料、一般図書資料の順となる。（第1表）

第1表 昭和47年行政資料分類別閲覧利用者数
（単位：人）

総数	中央官公庁資料	都道府県資料	茨城県資料	市町村資料	会館資料	社団法人資料	一般図書資料	特殊資料
3,872	1,177	473	1,127	108	46	836	105	

（注）利用者総数は延人数で、分類別利用者数は利用資料の代表的なものによる。

第3図 昭和47年種類別利用冊数



貸出し利用は年間で799人で月 60~70 人が利用をしている。

利用冊数についてみると、閲覧・貸出しと合わせ延 16,382冊で、内訳は閲覧14,816冊と。1人当たり3.82冊、貸出し1,566冊、1人平均1.95冊となっている。

また、利用された16,382冊を資料の種類別にみると、なんとといっても統計結果表が12,777冊、77.9%で最も多く、次いでその他調査結果表2,408冊14.7%となっている（第3図）

統計資料の利用状況

行政資料室における利用資料のうち、統計関係資料の利用者は3,784人で前年度の3,544人に比し240人の増となっている。

これらの利用者を職業別にみると公務員が3,212人で全体の84.8%と最も多く、次いで学生・教員の順となっている。

また、これらを利用目的からみると行政上の資料が圧倒的に多く3,115人、全体の82.32%を占め、次いで勉学の資料が261人、企業経営上の資料が215人となっている。（第2表）

電子リコピーの利用状況

行政資料室では写書用の電子リコピーを備え、利用者の便をはかっているが、この利用状況についてみると利用者数は年間574人、印刷枚数2,466枚で1人当たり4.3枚を使用しており、これを前年に比べてみると利用者で185人、枚数で415枚の減少をしたが、1人当たり枚数は逆に0.5枚の増加をみた。

（県統計課行政資料係）

第2表 昭和47年統計資料利用状況

（単位：人）

利用者数	3,784	利用者区分	公務員	教員	民間団体職員	報道関係	学生	その他
			3,212	47	44	13	216	37
利用者数	3,784	利用目的	行政上の資料	教育指導上の資料	企業経営上の資料	勉学の資料	研究資料	その他資料
			3,115	60	215	261	52	81

（注）保管資料のうち、統計資料関係のみを掲載した。